

ヒロテック、大蓉HD、大林道路の「楽フロン」

荷台の残土ゼロ

運搬効率向上でCO₂貢献

ヒロテック、大蓉ホールディングス(HD)、大林道路は、高い滑りやすさをもったフッ素樹脂ライニングプレート「楽フロン」を開発、販売し、高評価を得ている。ダン



荷台隅角部に楽フロンを設置

トラル(CN)に貢献する。3社は新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の「戦略的省エネルギー技術革新プログラム」で、海洋研究開発機構、大阪工業大

学、IPRコンサルタントとの共同研究により、超潤滑・高強度ながらも接着や接合が難しいポリテトラフルオロエチレンなどフッ素樹脂とステンレス鋼板をレーザーで直接接合する技術を開発。この技術を基に、楽フロンを荷台隅角部に設置する。

楽フロンの設置により、荷台の残土がゼロとなって運搬効率が向上する。これにより、年間3500t超の燃料を削減して運転経費を削減でき、年間6tのCO₂排出を削減しCNに貢献する。さらに、荷台清掃も不要となる。

大林道路が行った検証では剥離強度は接着の倍であり、粘性土でも滑りやすいことなどを確認している。

大蓉HDの大煌工業が2022年3月から販売を開始。これまでに約100台で活用されている。粘性土の付着抑制効果から、今後トンネル工事などでの活用が見込まれる。また、除雪作業時の雪運搬への適用を検討する。

今回、楽フロンはCNへの貢献などが評価され、省エネルギーセンター主催の「2022年度省エネ大賞」で製品・ビジネスモデル部門の経済産業大臣賞(輸送分野)を受賞した。

1日に東京都江東区の東京ビッグサイトで行われた表彰式の後、ヒロテックの鶴野徳文社長は「2社と連携するなどして、用途の拡大を模索していきたい」とし、大蓉HDの山下将晃常務兼CEOは「ドライバーや運送業の環境を変える一つのきっかけになれば」と述べた。大林道路の黒川修治社長は「高い滑り性を生かし、いろいろなアイデアがでてくる。この技術を

前提に大林グループで情報を共有している」と語り、用途の拡大に期待を寄せた。

